

第20回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年5月31日（火）午前9時00分～11時05分
2. 開催場所：Zoom を用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、榎本 敦、浜田信行、橋本 周、笠井 篤、阪間 稔、小嶋
光明、川島恒憲、小田啓二、五十嵐 悠
4. 紹介資料
資料1 日本保健物理学会シンポジウム予稿原稿（案）
資料2 国内外のエックス線被ばく事故例と課題（案）
資料3 非破壊検査におけるエックス線の使用と管理（案）
5. 議事
 - (1) 経過報告書全体について
事務局より経過報告書案の現状について紹介があり、修正後の経過報告書案が示された。委員からの意見、コメントに基づき、経過報告書案について以下の方針で事務局が最終の修正、調整作業に入ることになった。
 - 「1.2 WGにおける検討課題」の後半について、記載内容を簡潔にすることになった。
 - 報道例について、情報の展開やコミュニケーションの経緯を示す重要な資料となるため、引用の選定や方法について十分検討し、初出掲載日、URL等の事実に基づく簡潔な記載とすることになった。
 - 2021年5月発生のエックス線被ばく事故の情報がIAEA-supported Nuclear Events Web-based System (NEWS)に登録されたことから、本情報を経過報告書の中で紹介することとした。経過報告書では2022年5月末現在までの情報を取り扱うこととするが、本文中の節や項毎の記述のうち、原案の執筆時期から2022年5月末の間に新たな情報が入り内容に更新が必要になった部分があった場合には、節や項別に原稿執筆時期を明示することで修文はせずに、読者に注意喚起することとなった。
 - (2) 日本放射線安全管理学会及び日本保健物理学会シンポジウムについて
日本放射線安全管理学会及び日本保健物理学会主催の2022年6月のシンポジウムに関連して、事務局より本WGのセッション概要の紹介があり、五十嵐幹事補佐及び小田委員より発表内容案について紹介があった。また、日本保健物理学会シンポジウムでの発表予稿について飯本委員長より紹介があった。併せて、日本保健物理学会シンポジウムの発表予稿に内容を合わせた形で日本放射線安全管理学会シンポジウム発表予稿を準備する点、事務局より提案があり、委員より了承された。シンポジウム発表案について以下の意見があった。
 - 国内外の事故事例紹介では、本WGの契機となったエックス線被ばく事故の公的な情報は、厚生労働省からの関連各所への通知（令和3年6月1日付）及びIAEA-NEWSで紹介されている以外には存在しない点に留意して説明するのが良い。
 - (3) その他
 - 第19回WGの議事要旨を確認し、原案のまま承認された。

- 第19回 WG 終了後、事務局が原子力規制庁及び厚生労働省の担当者らと IAEA NEWS への情報登録に関する情報交換を行った旨報告があった。これを受け、事務局から、当該のエックス線事故に関する当WGとしての次のアクションについての意見具申があった。委員より、本 WG が事故調査委員会ではないことに改めて留意すること、事故発災元を含めた関係者が事故後対応にどのような困難を感じているのかに着目すること、本事故のみならず、これまで発生した事故の解析検討についても継続すべき、等の意見があった。これを受けて、執行理事会との調整を受けて方針を決めることとなった。
- 第21回以降の開催については別途事務局内で日程調整することとした。

以上